

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年 6月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0270101660
法人名	株式会社 イリエ
事業所名	あおやぎグループホーム
所在地	青森市青柳2-9-28 (電話) 017-721-6220
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年3月14日

【情報提供票より】(平成21年12月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	20人, 非常勤 2人, 常勤換算 18人

(2) 建物概要

建物構造	造り		
	階建ての	～	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月8日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	19 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	69 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	嶋中内科循環器科、斎藤内科小児科、渡辺病院、生協さくら病院、美容会病院、田村歯科医院、堀内歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者及び職員は、地域密着型サービスの意義を理解している。利用者本位の姿勢や、地域密着型サービスの役割を盛り込んだ理念を作成している。
 利用者への影響を考慮し、異動は行わないよう努めている。異動を行う時は、利用者に十分説明すると共に、新職員への事前オリエンテーションや業務引継ぎを行っている。
 看護師の資格を持った職員を配置し、医療連携体制を整えている。また、ホームの車輛を利用し、買い物やお墓参り等に出かけたり、家族が宿泊する際には寝具や食事を提供するなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。
 外部・内部研修を通じて、全職員は身体拘束に関する理解を深めている。やむを得ず拘束を行う場合は家族の同意を得るほか、理由や方法、期間等を記録に残す体制となっている。

【特に改善が求められる点】

特になし

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>日々の業務を通じて、評価に関する話し合いや意識付けを行っており、職員は評価のねらいや活用方法を理解している。外部評価の結果を受けて、改善策を検討するなど、今後のケアに反映させるよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価には、運営者、管理者、職員が一緒に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1回開催し、行事等の報告や、介護保険や認知症の勉強会等を行っている。また、自己・外部評価の結果も報告している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>写真を掲載したホーム便りや面会時、電話を通じて、日々の暮らしぶりや健康状態等を定期的に家族に報告している。</p> <p>重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、ホーム内の目に付く場所に掲示している。また、意見・相談ボックスを設置するなどの取り組みも行っており、家族から意見等が出された時は今後のケアに反映させるよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に挨拶を交わしたり、町内会に加入し、盆踊りやゴミ拾い等の行事に参加するなど、住民との交流を深めている。また、実習生や中学生の福祉体験を受け入れるなど、ホームの持つ専門性を地域に開放している。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーについて説明し、書面で誓約を交わすなどの取り組みを行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念を事務室や食堂に掲示するほか、月1回の職員会議で取り上げるなど、全職員への理解を深めている。また、職員は理念の意味を理解し、日々のケアに反映させるよう努めている。</p> <p>講師を招いて権利擁護に関する研修を行っており、管理者や職員は制度の概要や問合わせ先を理解している。また、必要に応じて利用者や家族に説明する体制も整っている。</p> <p>職員の経験や資質を考慮し、年間計画を作成した上で、外部研修に派遣するほか、資格も積極的に取得するよう努めている。研修受講時は、日々のケアに支障が出ないよう、勤務体制に配慮している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>サービス開始前にホーム見学や家庭訪問を行うなど、利用者や家族から情報収集を行い、双方の意向に沿うよう努めている。</p> <p>職員は、利用者の言葉やしぐさ、表情を十分観察し、利用者の喜怒哀楽を共感できるよう努めている。また、掃除や作品作り、調理の下ごしらえ、畑作業等の場面では、利用者に力を発揮してもらうよう、共同しながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時には、利用者や家族の意向を聞くほか、月1回の会議で職員の意見や気づきを出し合っており、個別具体的な内容となっている。</p> <p>看護師の資格を持った職員を配置し、医療連携体制を整えている。また、ホームの車輛を利用し、買い物やお墓参り等に出かけた時、家族が宿泊する際には寝具や食事を提供するなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>入浴日は週2回となっているが、入浴時間や順番は利用者の意向に合わせている。また、夏場はシャワー浴も実施している。入浴時は、利用者のプライバシーに配慮するほか、入浴を拒否する利用者に対しては、声をかける曜日や時間、職員を変えるなどの工夫を行い、無理強ひすることなく支援している。</p> <p>栄養士の助言を得ながら、栄養バランスに配慮した献立を作成している。食事は1,400kcal、水分は1,000mlを目安に提供しており、摂取量は必要に応じて記録している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、地域密着型サービスの意義を理解している。利用者本位の姿勢や、地域密着型サービスの役割を盛り込んだ理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室や食堂に掲示するほか、月1回の職員会議で取り上げるなど、全職員への理解を深めている。また、職員は理念の意味を理解し、日々のケアに反映させるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩時に挨拶を交わしたり、町内会に加入し、盆踊りやゴミ拾い等の行事に参加するなど、住民との交流を深めている。また、実習生や中学生の福祉体験を受け入れるなど、ホームの持つ専門性を地域に開放している。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーについて説明し、書面で誓約を交わすなどの取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の業務を通じて、評価に関する話し合いや意識付けを行っており、職員は評価のねらいや活用方法を理解している。自己評価には、運営者、管理者、職員と一緒に取り組むほか、外部評価の結果を受けて、改善策を検討するなど、今後のケアに反映させるよう努めている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催し、行事等の報告や、介護保険や認知症の勉強会等を行っている。また、自己・外部評価の結果も報告している。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課と連携を図るほか、地域包括支援センターとの連携も密に図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講師を招いて権利擁護に関する研修を行っており、管理者や職員は制度の概要や問い合わせ先を理解している。また、必要に応じて利用者や家族に説明する体制も整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やその後の内部研修を通じて、全職員が虐待について理解している。管理者は職員も日々のケアを観察し、虐待を未然に防ぐよう努めるほか、マニュアルを作成し、虐待を発見した場合の対応や報告の流れを全職員に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書等を基に、利用者や家族にホームの概要を十分説明している。また、家族等から質問が無い場合は、相手の様子を見て再度詳しく説明するなどの対応を行っている。契約改訂時や退居時にも説明して同意を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を掲載したホーム便りや面会時、電話を通じて、日々の暮らしぶりや健康状態等を定期的に家族に報告している。金銭管理状況は個別に記録し、領収書を添えて毎月家族に報告している。また、職員の異動等があった場合も随時報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、ホーム内の目に付く場所に掲示している。また、意見・相談ボックスを設置するなどの取り組みも行っており、家族から意見等が出された時は今後のケアに反映させるよう努めている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考慮し、異動は行わないよう努めている。異動を行う時は、利用者に十分説明すると共に、新職員への事前オリエンテーションや業務引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や資質を考慮し、年間計画を作成した上で、外部研修に派遣するほか、資格も積極的に取得するよう勧めている。研修受講時は、日々のケアに支障が出ないよう、勤務体制に配慮している。外部研修後は報告書を作成し、伝達研修を行い、全職員に周知している。日々の業務上の相談は、運営者や管理者が対応している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターとの連携を図っており、地域包括主催の会議や研修会に参加している。また、法人内において情報交換を行っており、得られた情報等を今後のケアに反映させるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にホーム見学や家庭訪問を行うなど、利用者や家族から情報収集を行い、双方の意向に沿うよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の言葉やしぐさ、表情を十分観察し、利用者の喜怒哀楽を共感できるよう努めている。また、掃除や作品作り、調理の下ごしらえ、畑作業等の場面では、利用者に力を発揮してもらうよう、共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を観察し、一人ひとりの意向を汲み取るよう努めている。また、家族や関係者からの情報収集も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者や家族の意向を聞くほか、月1回の会議で職員の意見や気づきを出し合っており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、3ヵ月、6ヵ月ごとに見直しを行っている。申し送りやカンファレンス等で利用者の状態等を把握するよう努めており、利用者や家族の要望等に変化があった時は随時見直している。見直し時は、再アセスメントを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の資格を持った職員を配置し、医療連携体制を整えている。また、ホームの車輛を利用し、買い物やお墓参り等に出かけたり、家族が宿泊する際には寝具や食事を提供するなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、入居前のかかりつけ医を継続して受診できるよう、また利用者の希望する医療機関を受診できるよう支援している。受診は、家族も一緒に行うことが多く、受診結果は家族と共有している。また、ホームには看護師を配置しており、気軽に相談できる体制となっている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、入居時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。また、重度化や終末期のケアについて、早期から医療機関も含めて話し合い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導等は、周りに聞こえないよう声の大きさに注意したり、別の用事で呼んでから誘導するなどの配慮を行っている。基本的には「さん」付けで呼んでいるが、利用者の希望により臨機応変に対応している。職員は、内部研修等を通じて個人情報保護法について理解しており、個人ファイル等は事務室に適切に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、一人ひとりのペースや要望を優先し、対応するよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事を摂っており、利用者とは会話するなど、和やかな雰囲気となっている。献立は、利用者個々の嗜好に合わせてメニューや量を調整している。また、食器の準備や片付けなど、利用者ができることは協力してもらっている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回となっているが、入浴時間や順番は利用者の意向に合わせている。また、夏場はシャワー浴も実施している。入浴時は、利用者のプライバシーに配慮するほか、入浴を拒否する利用者に対しては、声をかける曜日や時間、職員を変えるなどの工夫を行い、無理強いることなく支援している。		
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時やその後の関わりを通じて、一人ひとりの生活歴や希望等を把握している。大根などの野菜作りや漬物作りとの役割や、ハーモニカ演奏やビデオ鑑賞などの楽しみごとを、個々に応じて促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩やドライブ、買い物などに出かけるほか、希望に応じて理美容院や墓参り等に出かけている。外出時は、一人ひとりの身体状況に応じて移動方法等を考慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修を通じて、全職員は身体拘束に関する理解を深めている。やむを得ず拘束を行う場合は家族の同意を得るほか、理由や方法、期間等を記録に残す体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は19時から5時までは施錠しているが、日中は自由に出入りできる。また、居室は施錠していない。利用者の外出を察知できるよう見守り等を行っており、察知した場合は職員が付き添っている。無断外出時に備えて、町会長や民生委員、近隣住民、病院等に協力を呼びかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中・夜間を想定した避難訓練を年2回実施しており、消防署の協力を得て、利用者も参加している。災害時に備えて、敷地内に非常食を用意するほか、地域住民等からの協力が得られるよう働きかけを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の助言を得ながら、栄養バランスに配慮した献立を作成している。食事は1,400kcal、水分は1,000mlを目安に提供しており、摂取量は必要に応じて記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成するほか、流行に合わせて、看護師を中心に毎年定期的に学習会を開催している。また、保健所と連携を図るなど、最新の情報を収集しており、感染症に関する情報はホーム便りや面会時を通じて家族にも提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にソファを配置するほか、亀や子犬を飼うなど、利用者がくつろげる空間となっている。職員が立てる物音は騒がしくなく、日差しの強さも適度で、快適である。また、季節の装飾を施すなど、季節感を感じられるよう配慮している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器やテレビ、位牌、タンス等、入居前からの生活用品を自由に持ち込んでいる。また、継続して家族に持ち込みを働きかけるほか、行事の際の写真を飾るなど、一人ひとりにとって居心地のよい空間となるよう工夫している。		

※ は、重点項目。